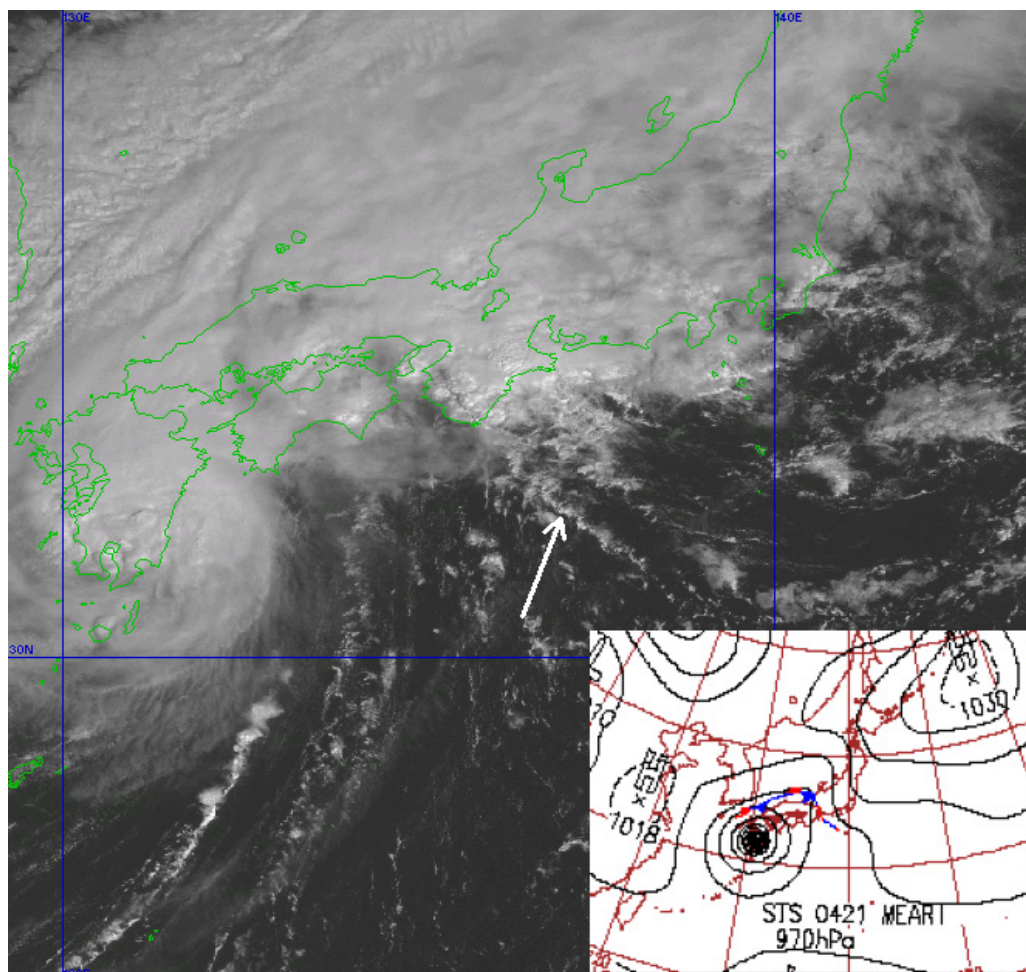


今月の気象衛星画像 (2004年9月)



2004年9月29日10時の可視画像と09時の天気図

記録的大雨をもたらした前線と台風第21号

台風第21号は、9月29日8時半ころ鹿児島県串木野市付近に上陸し、今年8個目の上陸台風となった。

写真は台風第21号が九州地方南部を通過中の午前10時の可視画像である。台風本体の雲は主として九州地方だが、これとは別に本州の太平洋側には前線に対応する雲バンドが東西に伸びている。雲バンドの南の紀伊半島沖には雲ライン(図中矢印)が確認できる。この雲ラインは、日本の東にある高気圧から流入する東よりの冷湿な気流と、台風巻き込む南よりの暖湿な気流の合流する付近にあたっている。雲ラインの指向先となっている紀伊半島付近では特に雲が発達しており、三重県尾鷲市や宮川村では、午前7時頃から10時頃にかけて1時間に130mmを超える猛烈な雨を観測した。

紀伊半島付近は停滞していた前線の影響で断続的な降水が続いていたが、台風第21号の接近による短時間の豪雨が重なり、土砂災害など甚大な災害が発生した。

(気象衛星センター)